



悲しみと愛しみ・・・そして責任（応答性）とは？

震災から5年目を迎えようとしています。「毒死列島 身悶えしつつ 野辺の花（石牟礼 道子）」福島原発の事故による放射能の「毒」に染まった列島は、あの日文字通り身悶えしました。放射能だけでなく、コンクリートで固められ、息をできずにいた大地が身悶えした大地震。福島を訪ねる度に、これからもどれだけ痛みを抱えながら生きていかなければならないか。その計り知れなさに、おろおろしてしまいます。ぶつけようもない怒りと名付けられない悲しみ。

世田谷事件という未解決の殺人事件で妹たちを失ってから15年が経ってしまいました。被害者遺族となって15年以上、これからも、やり場のない悲しみと怒りと、何もできなかった無力感、後ろめたさを抱えていかなければならない。来週に迫ったあの日に東北を訪ねるに際し、どうすることもできない「曖昧な喪失」に耐える「悲しみ」に想いを馳せています。

「悲しみを生きる力に」という、岩波ジュニア新書から出した拙著と同名のタイトルで話す機会を与えて頂く時には、亡くなった人たちの存在に導かれて話すのでなければ成し得ません。「悲しみが生きる力に」変わるとは、到底思えないほどの悲しみを抱えている方々の絶望の先にある小さな光をたぐり寄せられれば、と願いながらお話しします。

1月には連続して上智大学のグリーンケア研究所で授業させて頂きました。その中で「遺族の時間は止まったまま」というメディアの常套句に抗して、限りなく個人的な喪失の物語の中を編んでいく必要性を伝えました。メディアが、社会が、作り上げる遺族像・・・怒りに満ちていたり、悲しみに暮れていたり、前を向いて歩いていたたり、正義を望んでいたり・・・それはそれで一面の真実であるかもしれないけれど、悲しみの色はそれぞれ違うのだから、既成の遺族像に囚われず、それぞれのありふれた日常の中にこそ再生のヒントがある、と語りかけることで「グリーンケア」における「対人援助」の可能性を探る授業です。

2月には心理学を専門とする先生方の講演会で話しました。私の言葉にマイノリティの立場から発信した米国の黒人女性詩人マヤ・アンジェロウに共通するものを感じた、という感想は、その日のテーマのアドラー心理学流の「勇気づけ」でした。嬉しかったです。2014年に死去したマヤは、人種の隔てなく、最も敬愛されたアメリカ文学者の一人です。1993年のビル・クリントン大統領の就任式、また2009年のマイケル・ジャクソンの葬儀で彼女の詩が読み上げられ、感動を呼びました。マヤによれば「biting language（怒りの噛み付き言語）であるうちは言葉は響かない」。私もそう思います。事件で亡くなった四人の家族の物語を、悲しみ、哀しみとともに「愛しみ」をこめて、語ってきました。

冒頭に引いた石牟礼道子の紡ぎ出す言葉は、戦後日本文学から彼女の作品を一作だけ選んだ池澤夏樹が言うように、誰かをたやすく糾弾するのではなく、加害と受難の関係を包む大きな輪を描いて、その中で人間とは何かを深く誠実に問うているからこそ、読み継がれるのでしょう。石牟礼はある対談でこう語っていました。「憎み返さないというのは自分との闘いだ・・・決して憎悪が無いわけではないけれど、愛し直す、だから自分との闘いなのだ」と。「愛することほど難しいことはない」とも語ってい

ます。「愛しみ」とは生ぬるいお涙頂戴でも、安易な馴れ合いとも違います。「闘い」がこうあるべし、という縛りの上に乗った思考停止とも違うように。安物の呪文に騙されないために、日頃から練れた言い回しができていなくてはならないという意味で、石牟礼は「言霊のさきはふ国」の巫女だと私は思います。

翻ってマヤは、マイケル・ジャクソンの葬儀で彼女の詩が読まれ、「We had him」（彼は私たちの中にいる）と呼びかけられた時、アメリカが生んだ巫女だったのかもしれませんが。かなしみを知る彼女は、公民権運動に身を投じた闘うひとでもありました。彼女は、「大衆は指導者を支えられるか？」というコラムで「分断」に抗してこう語りかけています。「私たちはレトリックや大げさな警句を使うのをやめ、ポーズを取ったり、上っ面を飾るのをやめて、自分たちの安寧を本気で守らなければならない・・・私たちの先祖は、引き離され、孤独に追いやられ、売買されていった人たちだ。その彼らがどのようにして『こどもたちよ、ともに歩け、何があっても団結を解くんじゃない』という言葉に込められた深い意味を悟ることができたのか？」（「星さえもひとり輝く」立風書房）

石牟礼道子が、マヤ・アンジェロウが伝えるのは、安寧が脅かされる時、平和が危機にある時、涙をこらえて詩を歌っているだけでは、平和を守れない、ということです。闘いは、今年の7月に選挙という形で私たちに訪れるでしょう。海外に出て戦争をしたいと声高に叫ぶひとたちと、あたりまえの日常を普通に送れる私たちの生活を守りたい・・・と願う人たちがとの間に訪れる闘いです。

「ミシュカの森 2015」ではゲストの作家、平野啓一郎さんに、「分人主義」をテーマに語って頂きましたが、平野さんは、自民党「改憲案」や96条改定についても、頻繁に発信しています。「憲法は権力を縛るとともに、国の骨格、ある共同体がどういう存在なのかという姿形を表現したもの。そうした、共同体の姿形を変えるようなことについて、半数近くの国会議員が反対しているのに発議できるというのは間違っている。」平野啓一郎さんには、今回の会報にも掲載されているように、6月29日に「平和への想像力とは？」というタイトルで上智大学コミュニカレッジの一講座でお話頂きます。そのタイトル通りに私たちに求められているのは「想像力」。旧来型の同一性に依拠した連携ではなく、相互の他者性を受け入れてなお、連帯を求め合う形を創る想像力が求められているのを感じます。

人間が社会的な動物である以上、一個人の人生にとっては、幸不幸を問わず、社会的な影響は不可避です。「責任」とは、responsibility（応答性）なら、私たちはどう、応答すべきか、どう連帯すべきか・・・ひとりひとりが問われています。

「ミシュカの森」主宰 入江 杏

わたしたちの力で、野党協力を！ 参議院選に勝利しよう！

会報新年号の発行後も、安全保障関連法の廃止、安倍内閣の退陣を求める国民の運動は大きく発展を続けています。主だったものを挙げるだけでも、1月23日には市民連合（総がかり行動実行委員会、安保法制に反対する学者の会、ママの会、立憲デモクラシーの会、SEALDs）のシンポジウムが、1月24日には「ミナセン

（みんなで選挙）」市民選対勝手連（参議院選挙において野党候補を1人でも多く当選させるために各地で立ち上がった、自民党系の人から共産党系の人までを含む多彩な野党支援勝手連のあつまり）のシンポジウムが、開催され、以後それぞれの団体ごとに活発に活動をしています。

総がかり行動実行委員会というのは、昨年の安保法案反対運動の中で、閣議決定による解釈改憲反対、安保法制反対、安倍内閣退陣を旗印に、①戦争をさせない1000人委員会（社民色が強い）、②解釈で憲法9条を壊すな！実行委員会（民主系も含み一般市民色が強い）③戦争する国づくりストップ！憲法を守り・いかす共同センター（共

産色が強い)の三つのナショナルセンターが集合したのですが、昨年来反(脱)原発の諸団体との連携を強めて来ており、2月20日には沖縄辺野古新基地建設に反対する団体と共に国会包囲行動を成功させ、参加者は28,000人に上りました。憲法、原発、沖縄辺野古のような国民にとって重要な要求運動が合流し、盛り上がってくるというのは、日本の民衆運動史上でも特筆に値する出来事です。このような盛り上がりを背景に、2月19日、国会内で民主、共産、維新、社民、生活の5野党党首の会談が行われ、安保法案廃止、野党共闘への取り組みが本格化しました。

内閣支持率が上昇していたことに気を良くした安倍首相は、年初来憲法改正、任期中の9条改正などと超強気の発言を繰り返してきましたが、3月4日、翁長沖縄県知事が昨年10月辺野古の埋め立て承認を取り消したことを不服として国が県を訴えた裁判で、辺野古新基地建設工事中断を含んだ和解案(福岡高裁那覇支部)を受け入れざるを得なくなりました。このまま強気に建設工事を続ければ、参議院選挙に悪影響があると判断しての「決断」であると報じられていますが、沖縄県民にとっては、一時的なものであるとは言え、大きな勝利であることは間違いありません。

安倍首相は、辺野古の和解案を飲み、憲法9条の改正は機が熟していないと発言するなど、弾力的なところを示しながらも、政府御用機関を成り下がったメディア利用して、野党協力は民共合作だ、野合だなどと民主党に対する攻撃を強めています。現在の状況で、選挙に勝つためには、野党協力しかありません。私たち一般国民、市民が、立ち上がり、さらに輪を広げて、野党協力に今一つ消極的な民主党を励まして、野党協力を実現させなければならないと思います。

ベグライテンは、ケアの思想と公共哲学を学び、身につければ、自らの物語を紡ぎ、みんなが幸せに生きることができる社会を作ることができると考えています。

ケアの思想というのは、ひと(他者)を大切に生きていくということです。他者を殺しに行き、自らも殺されるかもしれないという戦争には、絶対に反対の立場です。また、2月の例会で学んだように、戦争の準備をするために、これ以上医療や介護に必要な予算を削減すれば、日本の医療制度・介護制度は崩壊しかねないという意味でも、反対です。

また歴代の内閣が継承し、法曹界にも国民にも受け入れられて来た憲法9条の解釈を、一内閣の一存で変更し、その解釈に基づいて法案を作成し、強行採決とも言えないような採決の仕方でも可決したとする憲政の運営は、私たちが学んでいる公共哲学を踏みにじるものであると言わざるを得ません。

ベグライテンは、3月には浜矩子先生をお招きして、安倍内閣の看板であるアベノミクスについて、学びます。4月には、上野千鶴子先生をお招きして、銀看板である一億総活躍社会について学びます。5月、6月は、樋口陽一先生、中野晃一先生をお招きして、憲法や政治について学ぶ予定です。

学びを深めながら、学んだことを生かして行動し、安保法案廃止、安倍内閣退陣に結び付けるため、7月の参議院選挙に(同日選挙になる場合は、衆議院選挙でも)勝とうではありませんか。どんなことがあっても、憲法改正を阻止できる3分の1以上の議席を確保しようではありませんか。そのために積極的に行動し、野党協力を実現しましょう。

1. 総がかり行動実行委員会等が呼びかける、集会、抗議行動、講演会等に、友人知人を誘って参加しましょう。
 2. 総がかり行動実行委員会の戦争法廃止のための2000万人署名集めに、参加しましょう。ご家族、ご友人のみなさまにも、署名活動への参加をお願いしてください。あわせて、野党5党への支持を訴えてください。
- ・署名用紙は、総がかり行動実行委員会のHP (<http://sogakari.com/?p=1095>) にアクセスして、ダウンロード・印刷してください。(ワード版が良いと思います。)
- ダウンロード・印刷できない方は、署名推進責任者の大塩(080-1126-8718 / VEU03273@nifty.ne.jp) まで要請してください。印刷したものを郵送するようにします。

・集まった署名は、各自 総がかり行動実行委員会に送付してください。送付後、署名数を推進責任者までお知らせください。

3. 戦争法について、もっと知るため、あるいは署名活動でぶつかった難題を解決するため、ベグライテンで憲法カフェを開きます。3月は、2回、4月以後は、数回開きますので、参加したい方は、上記署名推進責任者までご連絡ください。弁護士などの専門家にも参加していただくようにします。

最後に、お願いがあります。友人や知人、ご近所の方などを、4、5人程集められる方は、推進責任者までご連絡いただけませんか？弁護士など講師役をしてくださる方とベグライテンの世話人が伺い、一緒に憲法カフェをやりたいのです。特別に事前の勉強して来なくとも、身近な問題から、憲法を学び、考えて行きたいのです。

(ベグライテン代表世話人 関根 和彦)

◇ベグライテン 3月例会（公共哲学を学ぶ会）のご案内◇

はやく行きたい、アホノミクスの向こう側

～正しき経済的風景を求めて～

1日で2,000円も暴落する株価、10円も急騰する為替…アベノミクスは破綻か？メディアも書き始めました。現場を踏んだエコノミストとして、アベノミクスを「アホノミクス」と決めつけ、破たんを予言してきた浜矩子さんに、縦横無尽に語っていただきます！

【講師】 浜 矩子 さん（同志社大学大学院ビジネス研究科 教授）

【日時】 3月20日(日) 14:00～16:30

【場所】 上智大学 四谷校舎 12号館 3F 302号教室 〒102-8554 千代田区紀尾井町7-1

JR 中央線・東京メトロ丸の内線/南北線四ツ谷駅 麴町口・赤坂口から徒歩5分)

http://www.sophia.ac.jp/jpn/info/access/accessguide/access_yotsuya

【参加費】 1,000円（学生、生保・障害者 500円） ☆どなたでも参加できます。事前申込は、不要です。

【講師プロフィール】 1952年東京都生まれ。1975年一橋大学卒業、三菱総合研究所入社。1990年4月より98年9月まで同社初代ロンドン駐在員事務所長。帰国後、同社経済調査部長、政策経済研究センター主席研究員を経て2002年10月より現職。専門領域は国際経済学。BBC, CNN, NHK、フジテレビ、TBS、テレビ朝日、朝日放送、毎日放送、テレビ東京、JWAVE、ブルムバーグTV、CNBC、アルジェジーラTV等映像・音声メディアの時事ニュース番組にマクロ経済問題に関するコメンテーターとして出演。内外の新聞・雑誌に寄稿。内外の政府委員会委員歴任。

【著書】 「最新EU経済入門」（日本評論社、1995年）、「ネクタイを締めた海賊たち」（日本経済新聞社、1998年）、「奇跡の繁栄はなぜ失われたか - 物語・日本経済50年史」（共著、PHP研究所、2001年）、「グローバル恐慌～金融暴走時代の果てに～」(岩波新書、2009年)、「中国経済危うい本質」（集英社新書、2012年）、「アベノミクスの真相」（中経出版、2013年）、「地球経済のまわり方」（ちくまブリマ - 新書、2014年）、「国民なき経済成長～脱・アホノミクスのすすめ～」(角川書店、2015年)、「みんなで行こうアホノミクスの向う側～平和の経済学を目指して～」(かもがわ出版、2016年)。

【主催】 ベグライテン HP <http://begleiten.org/> FB <https://www.facebook.com/begleiten2/>

ミシュカの森 FB <https://www.facebook.com/mforest>

ベグライテン憲法カフェ@四谷 第5回

【日時】3月18日(金)18:30~20:30 【場所】東京法律事務所会議室

〒160-0004 新宿区 四谷1丁目4 四谷駅前ビル 電話:03-3355-0611

(しんみち通り入り口 右側のファミリーマートとなり)

【テーマ】1. 自民党の右傾化・復古化 2. 野党共闘の可能性 3. 参加者からの提案事項

【アドバイザー】岸松江弁護士

◎ 20:30~21:30 引き続き、ベグライテン安保グループの打合せを行います。

2016年春期開講の「上智大学コミュニティカレッジ講座」のお知らせ

0141 安全保障法制と憲法

企画の一端に関わらせて頂いた講座がこの春も上智大学で開講する運びとなりました。豪華な講師が顔を揃える貴重な学びの機会となる筈です、是非ご参加ください。タイトルは「安全保障法制と憲法」、講座番号は0141です。検索、或いは問い合わせの際には、番号とタイトルをお伝え下さると便利です。コーディネーターの澤田稔先生（上智大学総合人間科学部教授・教育学）からのメッセージです。

いつの時代も戦争は自衛を名目に始まりました。わたしたちが「知らなかった、知らされなかった、知ろうとしなかった」ために、大きな転換点を迎えようとするこの時を許してしまったとしたら・・・

いま、ここから、再びの一步を連携して踏みださなくてはならないのではないのでしょうか。

一昨年7月の集団的自衛権に関する解釈変更に基づき、政府が昨年5月に提出した安全保障関連法案は、かってない幅広い国民の反対の声と野党の抵抗を押し切る形で9月に採決されてしまいました。この安全保障関連法をめぐる議会運営のあり方は、私たち国民の安全の問題にとどまらず、立憲主義や平和主義、果ては国民主権や基本的人権という近代民主国家としての日本社会の根幹を成す理念や仕組みを大きく揺るがしました。これに対して、学生など青年たちや子育て中の女性たちを始め、憲法学者など学者、文化人、ジャーナリストなど幅広い市民が「声」をあげ、政治への積極的な行動に「参加」したため、これまで経験したことのないような大きなうねりが生じました。

そこで、日本の将来を考える上で看過できないこのような状況に関して、若者や女性の視点を含め、有識者の意見を聞きつつ、受講者のみなさまと共に考える機会にしたいと思います。

憲法は主権者たる国民が「権力を縛る」ものならば、私たちももっと「政治リテラシー」を高めていく必要があるはずです。この国に民主主義を取り戻すために、みなさまとシェアしたい言葉が聞けるこの輪講に、ぜひご参加ください。

【日程・講師・講演タイトル】指定水曜日 19:00~20:30 回数 11回

4/20(水) 中野 晃一（上智大学国際教養学部国際教養学科教授）「民主主義ってなんだ？」

4/27(水) 島菌 進（上智大学神学部神学科教授、上智大学グリーンケア研究所所長）

「立憲デモクラシーと近代日本の精神文化」

- 5/11(水) 青井 未帆 (学習院大学大学院法務研究科教授) 「憲法と安全保障関連法のゆくえ」
- 5/18(水) 金平 茂紀 (ジャーナリスト、TBS執行役員)
「岐路に立つ日本?安保法制問題に関するジャーナリストのまなざし(仮題)」
- 5/25(水) 高遠 菜穂子 (エイドワーカー) 「イラクから見る日本?暴力の連鎖の中で考える平和憲法?」
- 6/08(水) 三浦 まり (上智大学法学部地球環境法学科教授)
「私たちの声を議会へ:女性の政治参画で変わる日本社会」
- 6/15(水) 上野 千鶴子 (東京大学名誉教授、立命館大学特別招聘教授
認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク (WAN) 理事長)
「社会運動論から見た—2015年夏わたしたちは何をしたのか?」
- 6/29(水) 平野 啓一郎 (作家) 「平和への想像力とは? (仮題)」
- 7/06(水) 太田 啓子 弁護士 (湘南合同法律事務所/明日の自由を守る若手弁護士の会)
「憲法と明日の自由 (仮題)」
- 7/13(水) 寺田 俊郎 (上智大学文学部哲学科教授) 「国民国家・立憲主義・世界市民主義」
- 7/20(水) 中野 晃一 (上智大学国際教養学部国際教養学科教授) 「自由で尊厳あるくらしのために」

【受講料】 (税込) 29,700円ホームページからの予約受付は以下のとおりです。

【申し込み方法】 ★インターネットでは上智大学のHPにアクセスして、講座番号0014を入力するか、タイトル「安全保障法制と憲法」を入力すると、下記画面が出ますので、そこから申し込みしてください。

<https://web.my-class.jp/sophia/asp-webapp/web/WWebKozaShosaiNyuryoku.do?kozaId=47963>

★電話申し込みはこちら→03-3238-3552 講座番号とタイトルを告げて下さい。

(公開学習センターのオフィスアワーは、月～金 9:30～11:30、12:30～17:00)

【定員】70名 【受講申込受付】5月16日(月)まで

★2016年1～2月の講演会・勉強会の報告と感想★

◇ベグライテン1月例会のご報告◇

フィンランドとアメリカから始まったひとのこころを助ける 古くて新しい援助スタイル

『オープンダイアログ』と『ハウジングファースト』

【講師】 森川すいめいさん (認定NPO法人世界の医療団理事/精神科医/鍼灸師/みどりの杜クリニック院長)
ほか実践者3名の方

【日時】 2016年1月16日(土) 14:00～16:30 【参加費】 1000円 (学生・障害のある人 500円)

【場所】 文京シビックホール会議室1・2 (文京シビックセンター3F)

【主催】 ベグライテン ミシュカの森 【共催】 上智大学 哲学科

【講師略歴】 1973年、池袋生まれ。老年内科・精神科医として、外来診療、往診、オープンダイアログによる診療を行っている。2003年にホームレスを支援する団体「TENOHASI (てのはし)」を立ち上げ、現在は理事として東京・池袋で炊出しや医療相談なども行っている。6つの非営利組織の理事。訪問看護ステーションKAZOCマネージャー。世界44か国を旅した。

【著書】 障がいをもつホームレス者の現実について書いた『漂流老人ホームレス社会』 (朝日文庫、2015)

【講師から一言】 ところが疲れ、孤立し、精神の疾患を患ったときに、私たちが頼る場所はどこでしょうか。仕事を失い、住まいを失ったときに待ち受ける一般的な支援スタイル（集団生活をいつまでも強いる形）にひとは耐えることができるでしょうか。孤独を感じ自尊心は傷つけられます。ところが疲れても、孤立することなくひとを助けていく方法がフィンランドにあります。住まいを失っても自尊心を傷つけられることのない援助方法がアメリカにあります。この二つの共通点は「自分の人生は自分のものである」そのことを援助者が奪わないこと、支えること。この二つのスタイルは、シンプルだけれども絶大な効果があることが証明され、今、世界中に広がりつつあります。そして日本でも始まっています。その内容と日本での実践方法をご紹介します。

★ご報告・・・大盛況、ありがとうございます！！満員御礼は感謝感謝・・・ただ、入ることができない方もおいでになったと聞き、主催としては申し訳なく、心よりお詫び申し上げます。立ち位置の違う方々が参集され、百数十人のおいで、原初のオープンダイアログはお楽しみいただけたかと思います。森川先生に最初にお声かけした身としては、満員御礼に感謝とともに、運営の素人臭さをお詫び致します。

これだけの方々にお集まり頂けたのは、講師からの一言でよびかけられたように、支援のスタイルとして新たなモデルとなる「キーコンセプト」への関心の高さだと思います。「オープンダイアログ」「ユマニチュード」「ハウジングファースト」の三つ。見事に三つとも横文字ですが、目新しいことではありません。

この三つのキーコンセプトの基調通音は憲法 25 条だと私は感じました。25 条ではすべての国民に「生存権」という人権が保障されていると言っています。「生存」権といっても、ただ「食べて寝て、生き永らえられればよい」というわけではありません。すべての国民は、「健康で文化的な生活」、つまり人として人に値する生活（人間らしい生活）をおくることを「権利」として保障されているのです。（入江 杏）

★ご感想から・・・たくさんのキーコンセプトを、いただきました。これからの地域活動に生かしていきたいです。「オープンダイアログ」と「ハウジングファースト」と同列になっているので、どこで繋がるのか、ドキドキしてました。何よりも、トルニオに突撃訪問した森山すいめいさん、三ツ井直子さん達の話が聞きたくて、参加しました。「Need-adapted Approach」の概念が、「必要」だから「困っているから」と、その時代、その地域性と関係性の中で、対話しながら修復し造り出していく。これに尽きるなあ～、と思ったしだいです。特に、本では分かりにくいリフレクティング場面のデモを見て、講演者達が参加者と、オープンダイアログ的展開にするところは、絶妙でした。たくさんのお土産を頂きました。またぜひ続きを！（相澤和美さんより）

◇ベグライテン 2月例会のご報告◇

誰もが安心して暮らせるための 医療・介護・福祉を届けたい！

医療・介護・福祉を脅かす安全保障関連法に反対します。

【日時】2月20日(土)14:00~16:30 【場所】上智大学四谷校舎 11号館 4F 411 教室

【参加費】1,000円(学生、生保・障害者 500円)

【主催】ベグライテン・ミシュカの森 【共催】上智大学哲学科

【講師】伊藤真美さん(花の谷クリニック院長)

<http://hananotani.jp/>

小島美里さん(NPO法人暮らしネット・えん代表理事)

<http://npoenn.com/>

【伊藤真美さんプロフィール】信州大学医学部卒業。校正病院内科、都立駒込病院化学療法科、自治医科大学血液科、亀田総合病院血液内科を経て、1995年千葉県千倉町に「花の谷クリニック」開設。2013年9月に「スープのよろずや『花』」を開店。著書には『しっかりしてよ！介護保険』（草思社）他

【小島美里さんプロフィール】全身性障がい者の介助ボランティアグループから医療法人の在宅介護部門代表を経てNPO法人暮らしネット・えんを設立。居宅介護支援、訪問介護、認知症通所介護、認知症グループホーム、小規模多機能型介護、配食サービス、高齢者生活共同住宅を運営。著書には『おかしいよ！介護保険』現代書館 など。

【講師から一言】都心から離れて、地域で看取りを含め住民の健康と暮らしを支援していると、格差が着実に拡大していることがわかる。通院の回数が減り、必要な介護を断ってくるのだ。これは他人ごとではない。自分事だと実感している。拡大する軍事費を捻出するため、この上予算を削られれば、日本の医療・介護・福祉は崩壊してしまうと、昨年7月から、「いのちと暮らしを脅かす安全保障関連法に反対する医療・介護・福祉関係者の会」(<http://heiwa-inochi.sakuraweb.com/>)の呼びかけ人として、活動をはじめた。安保法制とアベ政治が、戦争への道を開くから反対というだけではない。私たちの日常にある医療・介護・福祉の領域に危機的な事態をもたらすから反対なのだ。

★ご感想から 2月例会は、房総半島の突端、千倉町で終末医療に取り組んでおられる花の谷クリニックの伊藤真美さん、埼玉県新座市石神で、高齢になっても障がいがあっても、おとなも子どもも共に生きる地域社会をつくることを目的に活動されている小島美里さんのお話を伺いました。小島さんのブログから一部抜粋して、お許しを。<http://blog.goo.ne.jp/npoenn/e/051d2108e1c4709a7eca90dca49c2540>

日曜日、映画『パーソナルソング』を観てきました。「千ドルの薬より1曲の音楽を」と、I p o dに入れた音楽を認知症の方に聴いてもらう。たったそれだけのことなのですが、一瞬で表情が変わり、歌い、踊り始める。過去の記憶がよみがえり、穏やかになる。ひとりのソーシャルワーカーが音楽の可能性を信じて始めた活動が、ユーチューブなどを通じて知られ、今では全米の介護施設で行われている。そんなドキュメンタリー映画です。認知症リハビリ、認知症予防、認知症重度化予防、認知症薬。この病気と闘おうと全世界の人々が必死になっているけど、どこか違う。そんな違和感を感じている人は少なくないでしょう。なんと、その認知症薬の代表「アリセプト」を世に出した薬学者が画面に登場して、この活動を賞賛しているのです。いつか皆さんにも観ていただきたい映画です。

https://www.youtube.com/watch?v=01J_YSMYKF4 続きで、下の番組もよかった！ユマニチュード / 認知症ケア 優しさを伝える技術 https://www.youtube.com/watch?v=C4j_BCKDzrQ 私がアルバイトで行っているデイサービス、まったくの素人の青年が就職してきます。時給850円で。私など、同じ系列のデイサービス2か所、2時間ずつ3回、千葉市と習志野市では看護師の必要日数が異なり、“こんな働き方、誰がするか！”と腹も立ち、“ベンキョーになる一つ”とっています。介護保険が出来た時には、私もケアマネの資格をとったり、いろいろ考えましたが、今では、介護保険は、老舗旅館の曲がりくねった廊下と部屋のように変更されているらしい。施設に入る時、貯金通帳の残高をコピーして見せないといけないなんて、信じられな一い！残高1千万円以上だったらホテルコスト代が取られる。私、今年4月に69歳になるのですが、“アラ古希世代”でも、思考停止に陥ってる人が多いと感じています。なんていうか・・・老いは、誰にとっても”未知との遭遇” 状況も時代も、そして、人格も！変わり変わり、“ベンキョーになる一つ”ではすまされないだろうなア・・・こわいな・・・小島さんは、親鸞の歎異抄13章を、お話の最後に引用されました。～わがころのよくて、ころさぬにはあらず。また害せじとおもうとも、百人千人をころすこともあるべし～ ベランダから老人3人投げ落とした青年・・・思うだけで気が滅入る。 (八木 優子さんより)

◆「暮らしの保健室」と「癌研有明病院緩和ケア病棟」訪問◆

◇「暮らしの保健室」訪問

秋山正子さんが2011年11月に設立された地域の保健室が「暮らしの保健室」です。新宿区戸山周辺の高齢者、障害者、貧困者のための保健、介護、生活相談の拠点として、TVなどでも広く紹介されています。20名の参加者で保健室はいつばいに秋山さんが自らご説明、ご案内してくださいました。

【訪問日時】 2016年1月24日(日) 14:00~16:00 【参加費】 500円(現地徴収)

【暮らしの保健室概要】 〒162-0052 新宿区戸山2-33 戸山ハイツ33号棟125(1階 商店街)

【アクセス】 都営大江戸線・東京メトロ副都心線 東新宿駅から徒歩5分

★ご感想から ベグライテンの主催による「暮らしの保健室」の訪問から、都市型の暮らしの未来が見えます。地域の医療の問題と住み慣れた場所でより良く人生を送りたいと願う人と真摯に向き合い生み出された「保健室」。人々の希望が一つ一つ結晶となって新たな希望の輪になっていく様に心打たれました。戸山ハイツは、戦後すぐに立てられ始めた都営住宅を、高度経済成長時代の1965年ごろから中高層化した七千戸の巨大団地ですが、今ではTVでも時々紹介されているように、孤老死が問題になるような高齢者が多い団地になっています。下町のマザーテレサと言われ、30年後の医療を考える会を主宰される秋山さんが、東京都と提携して作られたのが、暮らしの保健室とデルとなったマギーズホームについても紹介して頂きました。(春原 一道さんより)

◇「癌研有明病院緩和ケア病棟」訪問

癌研有明病院の唐渡敦也先生及び関係者みなさんのご好意により、下記のとおり訪問させていただきました。

【日時】 2016年2月27日(土) 14:00~16:30 【参加費】 500円(現地徴収)

【集合場所】 癌研有明病院1階ロビー総合案内付近 〒135-8550 江東区有明3-10-6

【アクセス】 りんかい線 国際展示場駅 徒歩4分 ゆりかもめ 有明駅徒歩2分

★ご感想から 昨日の癌研有明病院緩和ケア病棟の訪問見学会に参加させて頂いて初めに、御案内くださった唐渡先生と企画くださった皆様に、心より感謝申し上げます。1. 患者のQOL向上が医療費つまり財政予算削減の流れのなかで実現されていくために近年東京都内で起きている変化・国から各都道府県に病床削減計画策定が課せられたこと・都道府県から病院ごとの病床削減数の割り振りされる動きが具体的に始まっていること(緩和ケア病棟も例外でないこと)・各病院のカラー、現状の情報公開が進みつつあること具体的には、各部門ごとの新患受入数、退院時の帰り先などの情報開示が、都道府県のホームページ上でなされていること。以上は限られた医療費予算の中で、どのようにすれば家で看取りができる制度ができるか、その為に誰がどう役割分担して、病院と地域の医師との連携を良くするか が考えられた施策の一環とのお話を伺いました。・・・2. 以下に、先生にお伺い致しました将来の医療の姿の一端を紹介させていただきます。患者は、地域の包括支援センターに相談し、入院する地域の病院を紹介して頂くことになるそうです。また、入院時に、退院時に帰る場所について医師と話しあう心構えが求められるようになります。自宅かサービス付き高齢者住宅か、などと。また、意思決定が困難になるときに備えて「自分にかわる意思の代理表示者が誰か」と患者が多少心の準備をしていることも望ましいようです。一般的にうけられる医療に地域間格差が生まれそうなことを伺いまして、正直な所戸惑いを感じました。一方でプラス面として、訪問医療の診療所が、今より開業しやすい制度下で、増えるかもしれないということと、緊急時に患者を受入れる大病院が増えるように制度設計がなされたということを知りました。試行錯誤からよいものを生みだそうと、患者サイド側も努力と創意工夫をしていくのが大事では…。今私は地域内の情報に割合と疎いので、今後の情報共有の必要性に気づかされました。3. 最後に唐渡先生のあたたかいお人柄に敬意を持

ちました。やわらかい心のひとことで語れない目のやさしさ美しさ。心よりありがとうと申し上げたい訪問会でした。★アメリカにメタバイバーという言葉が定着してきているそうです。癌サバイバーという治療後一定年数が再発なくすごせた、ことばは悪いですけれども患者OBのような方をイメージしやすいのではないのでしょうか。メタバイバーは、治療をうけつつ再発を心配し生活している患者のかたがたを意味していることばとのことです。日本でも乳ガン患者のかたがたの間で少しずつ使われた始めています、と唐渡先生がおっしゃっていました。(H.Hさんより)

◇ベグライテン安保グループ「第4回憲法カフェ」のご報告◇

ベグライテン安保グループは、2015年7月以後安全保障関連法案廃案、安倍自公政権退陣を合言葉に、抗議行動や集会、講演会等に参加してきましたが、2015年9月の強行(無効)採決後、より積極的な形で運動を行うため、憲法カフェの形で会合を持つことにいたしました。安全保障関連法廃止、安倍自公政権退陣と言っても、これはこれまで以上に運動の輪を広げ、深めなければ、実現できません。大きく減ったとはいえ、まだ安倍自公政権の支持率は4割台、自民党支持率は3割を超えているのです。野党間で選挙協力や選挙後の政権の在り方を巡って協議が始まっていますが、私たち国民が主権者としての自覚を深め、積極的に行動しなくては、実現するとは思えません。安全保障関連法反対の声を5割台から7割台に増やし、安倍自公政権の支持率を4割台から2割台に減らすためには、自民党や公明党支持の人たちや、いわゆる無関心層と言われる人たちにも話しかけ、働きかけて行くしかありません。そのためには、私たち自身が学び方を変え、話し方を変え、行動の仕方や態度を変えて行くしかありません。

第1回憲法カフェは2015年11月13日(金)、第2回憲法カフェは2015年12月18日(金)、第3回憲法カフェは2016年1月29日(金)に、開催しました。今回の第4回憲法カフェは下記の要領で開催しました。

【日時】2016年2月25日(木) 16:30～20:30 【場所】東京法律事務所

【講師】弁護士 岸松江先生 (東京法律事務所) 【参加者】7名

【内容】2つのテーマを用意したが、1つのテーマのみを消化した。

1. 憲法9条について

資料として、「第90-帝国議会 昭和21年06月28日会議録」(野坂参三議員の質問に対する吉田茂大臣の答弁)を用いた。岸松江先生の発言の後、出席者全員が活発に発言した。主な発言内容は次のとおり。

- このような吉田茂氏の発言は意外であった。吉田茂氏は、国家の正当防衛権による戦争も認めないといっているが、本心で言っているとはとても思えない。吉田氏は戦前に外交官であったから、占領軍である米軍の意向を受けてこのような発言となったのではないか。
- この当時と現在では事情・状況が全く異なるが、近隣国家からの侵略に備えて自衛のための軍は持つべきだ。
- しかし、安全保障関係法を強行採決し、最近では憲法改正まで言い出しているが、海外にまで出かけて行って戦争しようとする安倍首相の考えが全く理解できない。

2. ヘイトスピーチについて 時間が無く、未了

(ベグライテン世話人 大塩 剛)

◆千葉県弁護士会『憲法出前講座』のご案内◆

最近、憲法が話題になっています。「憲法って何?」「集団的自衛権って何?」

こんな疑問に弁護士がお答えします。弁護士会から講師を派遣しますので、一緒に考えてみませんか。

お気軽にお申し込み下さい。(※この企画は平成28年3月末までです。ご注意ください。お急ぎを!)

【日時】～ 2016年(平成28年)3月末日まで 【場所】千葉県内各地

【費用】講師の交通費および資料代の実費をご負担いただきます。

【問合せ先】所定の申込用紙に必要事項を記載し、FAXにてお申し込みください。

千葉県弁護士会 FAX番号(043-225-4860)

【申し込み要領等】1. 対象者：千葉県内に住居、学校ないし職場のある市民の方(個人・団体を含む)

※ できるだけ参加者10名以上でお願いします。

- 2 申し込み方法 以下の実施条件をご了承のうえ、所定の申込用紙に必要事項を記載し、千葉県弁護士会宛にFAXにてお申し込みください(FAX043-225-4860)。当会から派遣講師を決定してご連絡します。講師決定後は、直接講師と連絡をお取りください。
- 3 実施条件 (1) 申込期限 遅くとも実施1ヶ月以上前にお申し込みください。
(2) 日 時 複数の候補日をご用意ください。
(3) 場 所 申込者の側で手配をお願いします。
(4) 費 用 講師料は無料。講師の交通費および資料代の実費は申込者の側で負担。
(5) 講演内容 講演時間は質疑応答を含めて90分を目安にしています。基本的に憲法の基礎的事項を内容とします。詳細は講師にご相談ください。
(6) 利用回数 この講座のご利用は一回とさせていただきます。連続講座はお請けできません。



★★ その他のカレンダー★★

◇東京・生と死を考える会講演会◇

【日時】2016年3月12日(土)13:00~16:00(受付12:30~)

【テーマ】2025年問題 ~超高齢社会と多死時代を考える

2025年には、団塊の世代がすべて後期高齢者となり、毎年150万人が亡くなる時代になることが、推測されています。国民全員が生と死を考えなくてはならない時代がやってきます。長年、日本に死への準備教育を普及されてきたデーケン先生より、超高齢社会にむけた備えについてお話を伺います。そして、在宅にて人生の最終段階の人とその家族の支援にあたってきた小澤竹俊医師より、具体的な援助を、医療を専門とする人だけではなく、関わるすべての人が行えることを、わかりやすく紹介していただきます。

今まで生と死について苦手意識を持っていた人が、自分自身の問題として考えられるように、そして苦しむ誰かの力になりたいと関われる自信となるセミナーです。是非、お誘い合わせの上、ご参加下さい。

【講演1】アルフォンス・デーケン氏(上智大学名誉教授・本会名誉会長)

「メメント・モリ ~超高齢社会を生きる~」

【講師からの一言】中世の人々はメメント・モリ(死を憶えよ)を座右の銘としていました。人間は自分なりの生を全うしなければならないのと同時に自分なりの死を全うしなければならない、死は学ぶべき芸術と考えていたからです。死をみつめることは、自分にいただいた「いのち」を最後まで、どう大切に生き抜くか、を絶えず問い直し、行動することだと思います。今年84歳になる私は老いや死をユーモア感覚で受けとめて、これからも笑顔と感謝を忘れずに生きたいと思います。自分らしい「死」と出会うために一緒に考えましょう。

【講演2】小澤 竹俊氏(めぐみ在宅クリニック院長・本会世話人)

「2025年問題を考える ~多職種連携で対応するエンドオブライフ・ケア~」

【講師からの一言】団塊の世代が後期高齢者を迎える 2025 年まであと 10 年。多死時代に備えて私たちは何を準備すれば良いのでしょうか？ 大切な家族が不治の病の床についたとき、私たちは何ができるのでしょうか？ 1 対 1 で対応するときも、多職種連携で対応するときも、あるいは意思決定支援のときにも、援助は共通の形で対応することができます。援助を言葉に表すことができるとき、職種を越えて、誠実な援助を提供することができますでしょう。

【会場】ニコラ・バレ9階（JR 四ツ谷駅麴町口左側、スクワール麴町斜め手前の茶色のビル）

【定員】150名 【参加費】：会員：1,500円、一般：2,000円、学生・障がい者：500円

【申し込み方法】事前の申し込みの必要はありません。当日会場にお越し下さい。

【問い合わせ】東京・生と死を考える会事務局。電話：03-3357-5780（火、土曜日の13:00—17:00）

FAX：03-3357-5793 http://homepage2.nifty.com/tokyo_seitosi/

◇学者の会・SEALDs 主催の街宣行動◇

【日時】3月13日（日）14:00～16:00 【場所】新宿東口アルタ前広場

【プログラム】学生・学者・文化人・政党スピーチ／ライブ etc. ゲストスピーカーが続々登場！

落合恵子、西郷南海子、小川敏夫（民主党）、志位和夫（日本共産党）、初鹿昭博（維新の党）

【主催】安全保障関連法に反対する学者の会・SEALDs

◇「公正な税制を求める市民連絡会」の第6回学習会◇

わが国は、日本国憲法と批准された障害者権利条約において、障害のある人を含めてすべての市民の命と権利が大切にされることが保障されています。ところが、厳しさを増す社会経済情勢とあいまって、ますます深刻になる貧困と格差、社会福祉事業への営利企業の参入などの問題が浮き彫りになっています。財政と障害者福祉には、どんな問題点があり、障害者福祉に必要な財源はどのくらい必要とされるのか、この問題に長年取り組んできたきょうされんの小野浩さんをお招きして学習します。

【テーマ】財政と障害者福祉 【資料代】500円 お申込：不要です。直接会場へお越しください。

【講師】小野 浩 氏（きょうされん常任理事・（社福）ウイズ町田 理事長）<http://www.kyosaren.com/>

【日時】2016年3月16日（水）18:30～21:00（開場18:00）

【会場】主婦会館プラザエフ 3階（JR四ツ谷駅 麴町口1分）<http://plaza-f.or.jp/index2/access/>

【主催】公正な税制を求める市民連絡会 <http://tax-justice.com/>

【連絡先】さいたま市浦和区岸町7-12-1 東和ビル4階 埼玉総合法律事務所 弁護士 猪股正

TEL 048-862-0355 FAX 048-866-0425

◇立憲デモクラシーの会シンポジウム◇

「国家は何を守るのかーグローバル化と戦争」

安保法制反対運動の高まりに触発され、立憲デモクラシーに対する関心が高まったことを受け、この運動に参加した、あるいはこの運動に関心をもった市民の方々に向けて、立憲主義の理念、憲法に基づく政治とは何か、今後立憲デモクラシーをいかにして回復していくかといった諸課題をめぐって、連続講義が行われています。

奮ってご参加いただければ幸いです。

【会場】 下記参照/早稲田大学早稲田キャンパス 22 号館 201 教室・立教大学池袋キャンパス 11 号館 A-203 教室

【時間】 18:30~20:00 (18:00 開場) 【参加費】 無料、先着順 (予約・事前受付不要)

【日程・講演者・教室】 3/4(金)既に終了した 三浦まり (上智大学教授、政治学) 先生の

「私たちの声を議会へ：代表制民主主義の再生」@早稲田大学早稲田キャンパス 22 号館 201

下記にアクセスすると、動画が見られます。→ <http://iwj.co.jp/wj/open/archives/290325>

3/18(金)	齋藤純一 (早稲田大学教授、政治学)	早稲田大学早稲田キャンパス 22 号館 201 教室
4/8(金)	高見勝利 (上智大学教授、憲法学)	立教大学池袋キャンパス 11 号館 A-203 教室
4/22(金)	阪口正二郎 (一橋大学教授、憲法学)	立教大学池袋キャンパス 11 号館 A-203 教室
5/13(金)	西谷 修 (立教大学特任教授、哲学)	立教大学池袋キャンパス 11 号館 A-203 教室

◇戦争法を廃止・安倍政権の暴走を許さない 3.19 総がかり 日比谷大集会◇

【日時】 3月19日 (土) 13:30~ 【参加費】 無料

【会場】 日比谷野外音楽堂 <http://sogakari.com/?p=1626>

【プログラム】 開場 12:00 プレ企画 13:00 集会開始 13:30 パレード開始 14:30

集会内容 政党挨拶 各界からの発言 銀座パレード 日比谷公園中幸門~鍛冶橋解散

【主催】 戦争させない・9条壊すな!総がかり行動実行委員会 (略称; 「総がかり行動実行委員会」)

◇港区主催講演会◇

障害のある人もない人もともに生きる地域社会をめざして

「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律 (障害者差別解消法)」が4月から施行されます。ベグライテンでもお招きした作家の大野更紗 (おおのさらさ) さんが、法の内容をわかりやすく説明していただく講演会が港区で開催、パラリンピックの金メダリストである葭原滋男 (よしはらしげお) さんも、ご自身の体験等について映像を交えお話し下さいます。

【日時】 3月19日 (土曜) 午後2時から4時15分 (午後1時30分開場)

【場所】 高輪区民センター区民ホール 地下鉄南北線・三田線「白金高輪駅 (1番出口)」直結

【プログラム】 第1部 基調講演 大野 更紗さん

「誰もが住み慣れた地域で自分らしく生きていく~障害者差別解消法がめざすもの

第2部 葭原滋男さん「障害者スポーツを通して考える共生社会」

【対象】 どなたでも 【定員】 250人程度 (申込順) ※手話通訳・要約筆記あり。会場での保育

(4カ月から就学前、8人程度)、自宅への介護人派遣が必要な人は、3月4日 (金曜) までに申し込み先へ。

【費用】 無料 【問い合わせ】 障害者福祉課障害者福祉係 電話: 03-3578-2670、ファックス: 03-3578-2678

【申し込み】 電話またはファックスで、3月11日 (金曜) までにお申し込みください。

電話の場合は、みなとコール (午前9時 (初日は午後2時) から午後5時受け付け) へ。電話: 03-5472-3710

◇グリーンサポートせたがや主催◇

連続講座「わたしも大事 あなたも大事」講演録 完成記念対談

巖岩奈々さん (Kids Hurt Too Hawaii 理事) & 保坂展人さん (世田谷区長)

2014年12月から2015年7月まで4回にわたって開催したグリーフサポートせたがやの連続講座「わたしも大事 あなたも大事」の講演録ができました！完成を記念して連続講座第1回の講師 巖岩奈々さんと世田谷区長の保坂展人さんをお招きし、さまざまな喪失体験をもつ子どもたちが安心して集える場づくりについてお話しをうかがいます。ぜひご参加ください。

【日時】2016年3月20日(日・祝) 午後7時～9時(開場 午後6時半)

【場所】世田谷区男女共同参画センター らぷらす(研修室3・4) (下北沢駅南口徒歩5分)

【地図】<http://www.laplace-setagaya.net/access/> 【お申し込み・お問い合わせ】 griefsetagaya@yahoo.co.jp

【参加費】1500円☆講演録1冊つき！(介助者無料、手話通訳・ノートテイクあり)

【講師プロフィール】巖岩奈々(ほろいわ・なな)さん Kids Hurt Too Hawaii 理事。不登校の子どもたちや居場所づくりに携わり、荻窪に「カウンセリングルームプリメイラ」を開設。働く女性、学生、カップルのカウンセリングを行う。企業・教育関係者を対象に感情・コミュニケーションをテーマにした研修も数多く行っている。著書に『感じない子ども 心ころを扱えない大人』『〇のない大人 ×だらけの子ども』(集英社)、『いじめや仲間はずれから身をまもる』(ポプラ社)他多数。

【主催】一般社団法人グリーフサポートせたがや

◇東京弁護士会、東京第一弁護士会、東京第二弁護士会シンポジウム◇

「安保関連法」施行迫る！私たちができること、しなければならないこと

【日時】2016年3月22日(火) 午後6時～午後8時

【場所】弁護士会館2階講堂クレオ 千代田区霞が関1丁目1番3号

東京メトロ丸ノ内線、日比谷線、千代田線「霞ヶ関駅」B1-b出口より直通 A1出口より徒歩2分

1. 講演 「違憲の安保法制に対して法律家ができること」濱田邦夫氏(元最高裁判事・第二東京弁護士会会員)
2. パネルディスカッション「安保法制によって自衛隊の活動はどのように変わるか」
柳澤協二氏(元内閣官房副長官補 安全保障・危機管理担当)
半田滋氏(東京新聞論説兼編集委員)元自衛隊PKO経験者
3. 報告 「違憲訴訟の現状報告」伊藤真氏(東京弁護士会会員)
4. リレートーク 安保関連法に反対する学者の会 安保関連法に反対するママの会 絵がかり行動実行委員会

【参加費】無料 事前申込不要 直接会場どうぞ。【お問合せ】東京弁護士会 人権課 TEL 03-3581-2205

【主催】東京弁護士会 第一東京弁護士会 第二東京弁護士会【共催】日本弁護士連合会 関東弁護士会連合会

◇NO NUKES DAY 原発のない未来へ！3.26 全国大集会◇

つながろう福島！守ろういのち！福島原発事故から5年・チェルノブイリ事故から30年 原発のない未来のために、「さようなら原発1000万人アクション」「原発をなくす全国連絡会」「首都圏反原発連合」が統一ロゴのもと、共同でアクションを決行する日を「ノーニュークスデー」と名付け、回を重ねています、原発を再稼働させないために、第6回ノーニュークスデーを、過去最大の規模で呼びかけます。「原発ゼロ」を求める全国の人たちの声をひとつにし、政府や電力業界にさらなる圧力をかけていきます。

【日時】 3月26日(土) 12:30～ 【場所】 代々木公園 <http://sogakari.com/?p=1598>

【アクセス】 JR「原宿駅」下車 徒歩10分 ・東京メトロ千代田線「代々木公園駅」(C02)下車 徒歩11分
・東京メトロ千代田線・副都心線「明治神宮前(原宿)駅」(C03、F15)下車 徒歩10分

◇3月 市民連合集会 市民連合全国交流集会(仮称)◇

【日時】 3月27日(日) 時間・詳細未定 【場所】 プラザエフ(200人規模) 【主催】 市民連合

◇戦争法発動反対! 戦争する国許さない 3.29 閣議決定抗議!

国会正門前大集会◇

【日時】 3月29日(火) 18:30～<http://sogakari.com/?p=1639> 【場所】 国会正門前・南庭・北庭前、並木通り

【プログラム】 第1部 18時半～19時半(主催: 総がかり行動実行委員会)

第2部 19時半～(主催: SEALDs+学者の会・予定)

◇聖ヨハネホスピスケア研究所主催 ボランティア講座◇

当研究所では聖ヨハネホスピスと共催で、ホスピスでのボランティアを希望する人を対象に、毎年ホスピスボランティア講座を開催しています。ご関心のある方は、どうぞご参加下さい。

【日程】 : 2016年5月19日～6月30日 毎週木曜日 計7回 18時30分～20時まで

【場所】 桜町病院 聖ヨハネホスピス棟 研修室(本棟にはエレベーターはありません)

【受講料】 5,000円 【定員】 45名(定員をオーバーの際にはお断りする場合があります)

【プログラム】 (1)5/19 ホスピスボランティアとは -聖ヨハネの場合-

(2)5/26 寄り添うこと -グループワークI- (3)6/2 ホスピスケアとは -医師から-

(4)6/9 ホスピスケアとは -看護師から- (5)6/16 生について・死について -グループワークII-

(6)6/23 ボランティア活動の実際 (7)6/30 ボランティアの体験談を聞く

【申込み方法】 まずは82円分切手をご同封の上、資料と申込書を下記まで郵送でご請求ください。

〒184-8511 小金井市桜町1-2-20 聖ヨハネホスピスケア研究所 ボランティア講座資料請求係

【お問い合わせ】 聖ヨハネホスピスケア研究所 申込みは4/2(木)必着でお願いします。

電話 042-380-7820(平日火・木・金 13時～17時) FAX 042-380-7826(24時間)

◇「いのちの電話」講演会～柳田邦男氏をお迎えして～◇

「言葉の力、いのちの支え」～自分を明日につなぐ物語を～

人生の危機に遭遇した時、老いや病と向きあう時、私達は、どうやってその時を超え、前向きに生きることができるのでしょうか。柳田邦男先生の豊富な取材経験における出会いと、ご自身の体験から、そのヒントを頂きたいと思います。

【主催】 いのちの電話後援会事務局

【日時】 2016年4月16日(土) 14時～16時 【チケット】 前売券 1,000円 当日券 1,300円

【会場】銀座プロッサム中央会館（中央区銀座 2-15-6） 有楽町線新富町下車 1 分

【お申込み】事前のお申込みが必要です。チラシ兼申込票にお名前、電話番号、参加希望人数等をご記入の上、FAXにてお申込みください。FAX:03-3264-4949★電話でのお申し込みは 03-3263-5794 (午後 1 時～午後 5 時)

◇私たちはあきらめない！戦争法を廃止へ！安倍内閣は退陣を◇

【日時】4月19日(火)18:30～ (毎月の総がかり行動)

【場所】国会議事堂前駅（東京メトロ丸ノ内線、千代田線）永田町駅（東京メトロ有楽町線、半蔵門線、南北線）

◇明日を決めるのは私たち 平和といのちと人権を！『5.3 憲法集会』◇

【日時】5月3日（火祝日）13:00～13時～（イベント広場は11時～）コンサート・集会・パレード

【場所】有明防災公園 <http://sogakari.com/?p=1510>

【アクセス】りんかい線 国際展示場駅より徒歩4分。ゆりかもめ 有明駅より徒歩2分。

◇リベラル研究会主催 第4回憲法記念日講演会◇

「公文書管理・情報公開・秘密保護法制の現在とこれから」

【日時】5月3日（祝）13:15～15:45 【場所】北沢タウンホール（294席）

<https://www.facebook.com/events/1093311484034864/>

【講師】三木由希子氏（NPO法人情報公開クリアリングハウス理事長）

【発言】保坂展人 世田谷区長ほか 【司会】佐藤あずさ 八王子市議



★★★編集後記★★★

ここまで辿り着いて読んでくださった方・・・ありがとうございました。3月11日に訪問する大川小学校。生き残った少年は5年を経てすでに青年の面差しとなっていました。彼の紡ぐ言葉、彼自身が撮った映像。若い語り部が、これから、さらに開こうとしているものに耳で見、目で聴きたい（打ち損じではありません）と思っています。東北の地の人の口は重い。だからこそ、深く言葉が響く・・・そんな気がしています。

「海嘯の浜に水仙香り立つ」（編集担当「ミシュカの森」入江 杏）

★★★講演会や講座、イベントの情報をお持ちの方はお寄せ下さい。なお「カレンダー」に掲載の一部の催しについては、お出かけの前に、主催団体のHP、FB、Twなどで調べてからお出かけください。

★★★書籍や映画などの推薦、投稿も大歓迎です。会報に関する連絡先：入江まで ANA71805@nifty.com
電話の場合：関根まで 090-9146-6667